

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_名古屋版(2016年改定) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エステムコート中区新栄二丁目V 新築工事	階数	地上15F
建設地	名古屋市中区新栄二丁目2106番、2105番の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域、緑化地域、都市機能誘導区域内、居住誘導区域内、特定用途誘導区域	平均居住人員	84 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2023年1月16日
敷地面積	537 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	204 m <sup>2</sup>	確認日	2023年1月16日
延床面積	2,733 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE0.9** ★★★★★

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆ 60%:☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	98%
③上記+②以外の	98%
④上記+	98%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境	3.0
温熱環境	2.9
光・視環境	2.8
空気質環境	3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

機能性	3.1
耐用性	2.8
対応性	3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.4
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.5

水資源	2.2
非再生材料の	2.5
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

地球温暖化	3.0
地域環境	2.3
周辺環境	3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
住宅街のため周辺に配慮した外観を確保した。	
<b>Q1 室内環境</b> 維持管理がおこないやすい二重計画とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高2.81m以上とし、ゆとりのある住空間としている。
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 防犯上、駐輪場は主に建物内に設けた。	
<b>LR1 エネルギー</b> 共用部分の照明器具はLEDを使用し、消費電力を抑えた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> F☆☆☆☆の部材を使用
	<b>LR3 敷地外環境</b> 周辺住民に配慮し、可能な限り駐車場を確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

(仮称)エステムコート中区新栄二丁目V 新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.066666667	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.9</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.5</b>
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.025	

## 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 3.2
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.9
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 2.5

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。